

エリアコーディネーター 実践報告

2020.1.29 30 | エリアコーディネーター育成講座
加古川市立別府小学校(播磨東地区ACo) 尾住奈未
(公認心理師・特別支援教育士SV)

経過

・特別支援学校のCoへ、公立小学校教頭より巡回相談依頼

↓
(通常学級在籍児童の離席行動) 特別支援学校能力Coより、ACo(エリアコーディネーター)の活用提案

↓
・地教委担当と特別支援学校のCoと打ち合わせ・役割分担

↓
・地教委担当と特別支援学校のCoによる巡回相談

↓
「離席行動のアセスメント」「聞き取りアセスメント」

↓
・特別支援学校のCoとACoの打ち合わせ

アセスメント結果の共有、WISC等の分析、役割分担

経過

・教育事務所からの派遣要請により



①教室の授業参観

②校内研修(全教職員向け)

③学級担任へのフィードバック

↓ ④今後の支援内容についての検討

・事後検討(電話等)



Ⅰ. 特別支援学校のCOとの協働

- ・お互いの長所を活用

- ・情報の整理

「子どもの困っていること」「個への関わり」「集団への関わり」

「学校が悩んでいること」

「リソース」

- ・同僚性を生かして

共感できること

I-① 互いの長所

特別支援学校のCo

- ・個の支援の専門性をもっている
- ・機能分析など、行動から深く読み取る
- ・地元の小中学校とのネットワークがある
- ・チームで関わるのが日常的に行われている

ACo

- ・集団作り、学級づくりの経験がある
- ・学年相応の学習に対するイメージを持っている
- ・WISC等の検査結果を生かした支援についての具体例のひきだしがある

2. 成果と課題

【成果】

□ 同僚性を生かした学びの機会

「教師」として、専門機関の資料等を指導にどう生かすか、共感性を持ちながら考えることができる。

□ 「ヨコ」のつながり

特別支援学校と市町を超えた小学校とが顔を合わせてつながれる。

□ 互いの長所を生かす支援体制

個に強く、チーム支援のノウハウ…特別支援学校 集団作り、授業づくり…小学校

□ 市町独自の「文化」を知る機会

2. 成果と課題

【課題】

□教科等指導員とエリアコーディネーター

「どうつながったらいいの?」「書類上のタイムラグ」

□特別支援学校のCoと高校通級

高校通級の増加で多忙化しないか

□本来の業務に差しさわりのない範囲

ニーズが増加したときにどう対応するかの方方向性

□次にリレーする視点をもって

役割の明確化、エリアをつなぐ人材が育つ土壌づくり